

平成 29 年度第 1 回笛吹市境川町地域審議会会議録

開催日時

平成 29 年 5 月 23 日（火）午後 3 時 30 分～

開催場所

境川防災センター 2 階 会議室

出席者

- ・地域審議委員
龍澤委員、宮澤委員、桑原委員、雨宮委員、北野委員、橘田委員、早川委員、
長谷部委員、渡辺委員、田中委員、渡邊委員、向山委員 計 12 名
- ・山下市長、小澤総務部長、深澤経営政策部長、須田総務課長、小宮山経営企画課長、
小澤経営企画課政策推進担当 L
- ・事務局 角田支所長、地域住民課担当深田 L

欠席者 小林委員 1 名

傍聴人 なし

次 第（進行：事務局担当 L）

1. 開会（支所長）

- ・互礼により開会

2. 委嘱状の交付

- ・市長より委嘱状を交付（12 名）

3. 正副会長選出

- ・事務局案として、会長に龍澤委員、副会長には宮澤委員を提案。
- ・全委員より承認を得る。

4. 会長あいさつ

境川地区内の各種団体責任者により、この境川町地域審議会を立ち上げている。
笛吹市はもとより境川町発展のために尽力いただきたい。一生懸命に務めさせて
いただく。よろしく願います。

5. 市長あいさつ

選任された龍澤会長、宮澤副会長、2 年間よろしく願う。また、各委員におかれ
ても任期 2 年という長い期間ではあるが、よろしく願う。

3 点ほど話をさせていただく。

まず、NTT の用地については、3 月議会で承認いただき 5 月に購入した。1 年から
2 年じっくり考え、市民の皆さんから意見をいただいた上で最終的にどういう活用
方法がいいのか決めていきたい。今回の議会で補正予算を計上し、少し整備を行な

う。秋までに終わらせ、ワイン祭り等を開催したいと考えている。とにかく皆様いろいろな形で使っていただけるように整備をしていく。どんなことに使っていただいても結構、地域で何か催しものをするのであればそこを使っていただければと思う。色々使っていただき、イメージをもってもらい、最終的に決めたいと思っている。

次に都市計画税について。議会で承認いただき、課税を1年間先延ばしした。都市計画税は、石和には課税していた経緯があるが、他の地域にとっては、新規に目的税を課税するという事なので、地域審議会の中でも様々な意見をいただきながら、最終的な結論を見出していきたいので、皆様のご意見をいただきたい。

次に支所の件について。当初は、この4月1日から1名減ということで進めていたが、今年1年間は今までどおりの体制を維持する。地域の方から支所のあり方に対し、色々な意見をいただいている。合併したので、昔のように職員をたくさん配置するというわけにはいかないが、市民が支所に対して何を期待しているのか、どういうサービスを求めているのか、どういうことが希望なのかなどをしっかり捉えて、そして、その中のパッケージをどういう中身にしていくか、ということ、今、一生懸命、庁内で議論している。境川支所においては、昨年、空調が壊れてしまったため、大至急、裏側の建物への移転を進める。今のままでは、来ていただいたお客様、市民の皆さまにも大変迷惑をかけてしまうので、何とか年内中に移転できるよう進めていく。

以上、3点について話させていただいた。これらは議会でも説明をし、受け止めていただいている。また、支所移転については、境川の地域にとって大きな変更になるので、意見があればお聞かせ願いたい。

次にハートフルタウン笛吹について。まちをつくっていく中の1つの考え方として、「ハートフルタウン構想」を掲げた。これは本当に単純な言葉。やさしいまちをつくっていこうということで、いろいろ事業をこれから進めていく。ハートフルタウン笛吹の構成は、三つのセクション「幸せ実感」「新たな農業」「観光再生」からなっており、この資料は、予算面も含めより分かり易く説明ができるような内容になっている。

境川について説明をすると、まず、幸せ実感、安心安全の確保。消防署の出張所を石橋地内に造り替える。この工事を年内に始める予定。有料ゴミ袋については、皆様に協力をいただき、ここ2ヶ月で2割程度ゴミの減量が進んでいるところだが、ゴミ袋が他市より倍も高いという声もある。笛吹市では可燃ゴミ袋を30円で販売、近隣市は15円。しかし、笛吹市は、不燃・粗大ゴミは、無料で収集しているが、近隣市では有料。ここをよく理解していただきたい。先日、飯田蛇笏・龍太先生の俳諧堂が完成した。あと少し時間や費用をかけ、俳句の里づくりの整備をする予定。裏山や表示類の整備をしながら、「俳句の里」にふさわしい施設整備を考えている。「観光交流センター寺尾の湯」の件については、大変多くの方に入場していただき、順調にスタートを切っている。

次に新たな農業について。世界農業遺産は、残念ながら今年は登録を逃したが、

再度、登録に向けて努力をしていこうと考えている。先日、スタンレー電気に伺い、日頃から笛吹市のために大変ご尽力をいただいている社長にお会いしてきた。お滝の用地周辺整備もこれから進める。大変素晴らしい作品がたくさん並べてあり、境川の核になるような拠点にしたいので、皆さんから意見があったら伺いたい。

大坪工業団地にオプトの代わりにシチズン電子が入っていただくことになった。従業員 150 人を予定しているとのことで「地域とできるだけ連携を。」というお願いをした。笛吹市はスマートインターもできた関係もあり、企業誘致の引き合いが非常に多いことから、境川町大坪の土地が少し余っているので、何とかそこを利用しながら工業団地の立地を進めていきたいと考えている。以上が、境川で進んでいる事業。

次に観光再生について。財政が厳しく合併特例債の期限があと 2 年ということで、非常に有利な部分が薄くはなるが、必要なものにはつぎ込む考え。そして新規につくるのではなく、この地域にある魅力に光を当てて、磨いて、笛吹市境川を、観光の目的地になるような地域にしていきたいと思っている。もうひとつ、富士河口湖町が今、インバウンドで大変調子のいい状況。そんな富士河口湖町から「フルーツ、ワインを求めて笛吹市と連携をとりたい。」という申出があり、大いにこれを進めたいと思っている。甲府市、山梨市、甲州市とは既に連携をとっているので、この 4 市 1 町で「富士山フルーツ観光推進協議会」をつくり、富士河口湖町のインバウンド客をこちらに引っ張ってこようと考えている。とにかく、あちらは果物を求めているので、そういうことも含めながら、境川にも多くの方が訪れるような仕組みづくりを考えたい。

少し長くなったが、地域審議会の方からできるだけ多くの市民の皆さんに報告いただき、いろんな人の意見を吸い上げる、そんな組織になればありがたい。是非とも皆さんの協力を願う。

6. 議事（進行：会長）

（協議書第 7 条 4 項により会長が議長を務める）

(1) 市長との意見交換

（委員）

スタンレーといえばお滝の彫刻、これが一番の目玉。観光協会という立場で、ミズバショウにもスポットを当てたい。旧中条町からいただいたミズバショウが、お滝に 3000 本が生い茂っている。春祭りには大変な賑わいを見せるが、他はまばらな人しか来ない。彫刻は、あまり見に来る人がいない。境川として、坊ヶ峯とお滝とこの周辺を、今後、どのように活用していったらいいかということ市でも考え、我々も希望や意見を出し、何かしなければ客は集まらない。大窪は大変眺めが良い場所だが、耕作放棄地が多くなっている。ここを利用しオートキャンプ場ができないか。境川は恵まれている。下水もあるし、自然も豊か。箱モノをつくるより土地を造成し、区画を整備するだけでいいので、検討願う。境川には境川なりの土地利用を提案したい。

(市長)

地域には地域のよさがある。その良さにどのように光をあてるかということが大切。大窪に荒れ畑があることも承知している。逆に市から民間に「こんなところでオートキャンプ場をやってみませんか。」「土地は安くできますよ。」とPRし、必ずしも行政が全部やることもない。そんなことをいろいろ検討する。

(委員)

大窪は限界集落で若い人がいない。先ほどの提案も一理あるが、地域の人自分たちの集落をどう考えるかということが一番大事。そういう提案を持っていく前に地域の話し合いの場を設けていただきたい。自分たちが意志表示をすることが一番大事。これも市長の役割だと思う。これがないといい発想をしても地域に受け入れられない。どうかその手立てを市長が中心となり、地域が何を考えているか、将来はどうしたいのかということをしっかり把握してもらうことが大切。その上で何をするとという段階になるのではないかと思う。このまま放っておくとどうなるのかと心配している。

(市長)

わかりました。

(委員)

今の話題について。都会の人が笛吹市にちょっとした菜園を作りたいと考えた時、交通の便が良ければそれもできる。ただ単に笛吹市に訪れるだけでなく、プラスそこでジャガイモ作りなど土日を使った体験企画等をすれば、もっともっと広がっていくのではないかと考える。大窪は一服の景色は非常にいいので、そんな発想でやっていけば活用はものすごく多くなると思う。市長から俳句の里づくりという話があったが、山廬のすぐ上に廃墟があり、屋敷の中にも草が生い茂っている。その住民は手入れも全然できない状態。山廬へ来た客の目につくところなので、何とかしたいが民地なので難しい。山廬の廃墟のように見栄えが悪いので、行政の力で解決してもらいたい。整備することによって飯田先生のところはもっと発展できると思う。

(会長)

他に何か。

(委員)

境川の板額御前、中条町との関係について、小学校で板額坂のいわれが分からない子供が多いということで、今年初めに3年生の総合学習の時間に話をした。遠い市町と相互に交流ということは土地の付加価値を生むことになる。先日、西桂町に行った時思ったのだが、観光案内所へ寄ったところ民間の人がボランティアで案内をしていた。そういう力が生まれてこなければ、観光業者だけでは厳しいので、民間の人が力を貸そうという体制がなければ地域を対外的に大きく周知することはできないと思う。

(会長)

区長会の方で何か意見は。

(委員)

リニアを見に八代銚子原へ行くが、リニアがそこで折り返して止まってくれば一番見やすい。今は八代と境川の中のトンネルの中で折り返して帰るので、どうしても境川では見られない。境川地域の中で折り返してもらいたい。ちょっとした見学の階段ルームみたいな同じ目線で見られるようなものがあれば楽しいかと期待している。

(会長)

リニアについて、何回か JR 東海と話しをした。小山が起点で、ここから東京へ実験線を延ばすことが元の発想。当時八代町が反対したため、実験が遅れては困るということで実験センターが都留へ行ってしまった。ここへ乗降口を作ってくれないかという話もしたが、実現しなかった。本来はここを起点として東京へ実験線を飛ばしていれば今都留にある施設は全部ここにあった。境川にできていれば笛吹市が潤うということになっていた。リニアも週に何回かこの前間田までは来ている。だから見る時間があっても長くは止まっておらず、すぐに帰ってしまうが、JR へ確認すれば境川へ何時ころ行くという話はしてくれるので、よろしく願う。

(委員)

グーグルで笛吹市境川町と検索してみた。結果は何と住所だけ。その住所というのはシチズン、峡東ごみ処理施設。境川ってこれだけしかないのかなと。次に「境川 観光」と検索したところ「境川農産物直売所」がヒット。しかし、これは市の HP の中からリンクされた笛吹観光ナビ。にもかかわらず境川農産物直売所の写真がボケて鮮明に映っていない。他にもこのナビで境川関連を検索しても、ヒットする写真が全て鮮明に映っていない。これは市長に伝えたかった。

(市長)

すぐに直す。出元はこっちですので、すみません。

(委員)

先ほどオートキャンプ場の話が出たが、私はこちらへ越して2年経つが以前横浜に住んでいた時にお滝へ行き、近くに釣り堀か養魚場があったので、オートキャンプ場もあればもっと有効になるのではないかという感想を持っていた。その時、ミズバショウのところにゴミが散乱し、蚊が多かった。上のほうにゴミが溜まっていて見た感じあんまりいいものではないので、お滝をもう少し綺麗にし、整備していただきたい。

(委員)

寺尾の湯へ間門方面から入るときの看板についてだが、農道から下って直ぐに左、畑総道路の左のゴミ処理場の大きな看板の下に申し訳なさそうに「寺尾の湯」と書いてある。これだと見落としてしまい分からない。ゴミ処理施設と寺尾の湯がセットになっているが、初めての方は寺尾の湯を目指して来ているので「寺尾の湯」と書いてある看板が目当て。今はリピーターを作るときなので、少し大きめの夜でも目立つ反射板付きの青い看板をつければ親切。リピーターを増やすまでは必要なので対応願う。

(市長)

この件は前にも要望があり、議会からも分かりにくいとの話があったので検討する。

(委員)

関連で、17日に新年度の事業説明会があり、その際にもう少しわかりやすい看板を設置願うとのご意見もでた。しかし、県の担当者は、笛吹市の景観条例に適合した看板なので、1度つけたものだからなかなか直すわけにはいかないとの回答だった。次の塗り替えや吊るし替えのときにはしっかりしたものに作り直すとの話はなしだった。ですが、私も道路端に畑や田があり作業をしている最中に何人かに聞かれた。住民が迷惑をしているので景観条例などと難しいことを言わずにもう少しわかりやすく見やすい看板を市独自でつけられないのか。

(市長)

承知した。検討する。難しいことではないと思う。

(委員)

大坪の工業団地への入居に伴う通学路の関係について、大坪入口信号の横断歩道を子供達は渡っている。今は砂原橋周辺道路が完全に開通していないので、交通量もあまりないから良いが、工業団地が完成したり道路が開通すると車の量も増えるのではないかと思う。今後、子供たちを安全に通学させるということも踏まえて、市長も考えていると思うが、市民も心配をしているので考慮願いたい。

(市長)

承知した。

(委員)

今、寺尾の湯の看板の話が出たが、間門からサンフードを上る橋も広げてもらったのだが、上寺尾から下るとサンフードから急カーブになっている。そして、国道から入ってくる車があそこで寺尾の湯へ右折する。上寺尾から車が勢いよく下っていく。私も結構通るのだがヒヤッとすることもある。せつかく造った道路だがなぜもう少し広くしなかったのかという話もあり、看板も含めてもう一度道路の見直しについて多少考えていただきたい。ごみ収集車の通行量が予想以上に多いと感じる。苦情も市へ多く届いているとのこと。それも含めて安全対策をしていただきたい。

(委員)

大坪工業団地の関連。工場は誘致の結果増えたが、公園のようなものがない。全部、工場にするより、こういう機会に従業員がくつろげるような場所や憩いの場所があればと思うので、公園分を敷地を減らして工場を誘致するなど、考慮願いたい。

(会長)

公園は必要はず。

(市長)

開発の規定で緑地帯、公園が必要という話なので、充分頭に入れておく。

(会長)

芦川と河口湖を結ぶ若彦路トンネルで、夏になると水がトンネルの中へ全面的に

染み出し、水浸しになる。中が危なくて運転しにくいくらい。冬はなんともない。どういふ原因かなと。

(市長)

確認する。水が全て河口湖方面へ行き、枯れたという話しか聞いていなかった。

(会長)

コロンから白井河原橋の間歩道がなく、非常に危険。中高へ通っている子もいる。何とか考えていただきたい。大坪の中を通過して県道に出ても、その間に歩道がない。

(市長)

確認する。一部は甲府地内。甲府南オートから先は甲府市中道白井。

(会長)

坊ヶ峰の観光について何とか整備をしてもらいたい。村の時も開発を考えたが、なかなか難しい。

(市長)

お正月に歩いた。その際、道路の整備も含め、地域の人から大変要望はあった。

(委員)

砂原橋の件は、その後進展はあったのか。

(市長)

砂原橋に関しては、これまで理解が得られなかった地権者の同意を得たので、石和側、八代側両方を30年に完成する予定で進める。

(会長)

他に何か。無ければ以上で、市長との意見交換会を終了する。

～ 市長退席 ～

(2) 地域審議会について（事務局担当Lより説明）

(会長)

年に3回の審議会が予定されている。次は8月14日の夏祭りに併せて協議していく。よろしく協力願う。

(3) その他

(委員)

NTTの土地については、市長や議員が代わったらすぐ議決された。これまで議会で頑なに固辞してきた部分が、逆転した。市民としても理解しがたい部分がある。それは決まったことだからいいのだが、都市計画税も1年据え置きということで議会で決定ということだが、境川地区ではあまり興味を持っていない。日常の話題とはなっていない。行政負担も非常に増えているので固定資産税プラス都市計画税ということになると市民は大変。いつを目処として都市計画税の課税を考えているのかその点についてご回答願う。

(総務部長)

(3)その他の中で、都市計画税と支所の問題について説明に参った。出席者の紹介をする。経営政策部長、経営企画課長、総務部長、総務課長。

まず、都市計画税については21年まで石和で課税しており、課税するための条例はあるが、これまで災害、経済情勢などの理由で昨年まで猶予し、この4月から課税することになっていたが、市長が代わり1年皆さんの声をきくということになった。これまで徴収した都市計画税については、石和の区画整理事業や下水の償還に充ててきた。財政状況については、笛吹市長期財政計画でも楽観していただけるような状態ではないことは確か。今後、上下水道料金の見直し、介護保険料の値上げ見込まれる。境川地域は、計画内全て下水道が整備されているので、起債の償還も当然していかねばいけない。都市計画税というのは目的税なので、何に使用しても良いというものではない。都市計画指定をした施設の建設やごみ処理場など既に建設したものの借金の返還に充てるために使う。境川地域とは対照的に、他の地域はまだ下水道整備が完了していない。それなのに都市計画税は芦川と御坂の一部を除いた全てのところに課税するものなので、下水道が整備されていないところでは、何で払う必要があるのかという議論もあることは事実。そういう課題も含めどうしていくか。市としてもいろいろ考えているが、境川町地域審議会ではどうお考えか、意見をお聞きしたい。

次に、支所について。これまでの方針は各支所の人数を1人減らし、それに見合った仕事という発想で支所業務の見直しを行ってきたが、市長が代わり、支所で必要とされる業務は何なのかということを中心に人を配置していくことになった。境川支所については市長のあいさつのとおり支所での業務遂行が不可能なので、坊ヶ峯ふれあいセンターへ移る方向で調整をしている。支所業務について、市民は何を求めているのか。人数が減ることに対して何を不安としているのか。例えばお年寄りの相談窓口が心配なのか。防災拠点が低下してしまうと心配しているのか。何が不安となっているのかを聞き、それらをうまくクリアできる方法が何かということの研究し、次のステップでは、それらの不安の解消方法を提示したいと考えているので、まずそのための第1歩として私どもが今日参った。そのような観点から意見をいただきたい。

(委員)

基本的なことから話してもらわなければいろいろ意見が出せない。

(総務部長)

まず、都市計画税について説明する。都市計画税に関しては既に条例で、課税できていることになっているが、これまで災害や経済情勢を鑑み1年間猶予しているのので、来年の3月までは課税しないことになっている。課税についての課題は、都市計画税の充当先は、下水道償還金がほぼ全て。そうすると下水道が整備されていない地域の方は、イノシシやシカが飛び回っているところまで都市計画税をとるのかというような話をする。ただ、都市計画税は、どこの土地にもかけるのではなく宅地と雑種地の固定資産税に0.2%分課税をするというもの。全体的な話をするとう笛吹市の

一般会計の予算規模は約 300 億円。都市計画税を 0.2%市内の都市計画区域にかけると 5 億円の税収となる。長期財政計画では、借金が約 340 億円で基金は 140 億円ある。借金があるからといって立ち行かなくなるということではなく、借金をしながらいかに自治体を運営していくかというのが基本的な考え方なので、今どうしても困っているということでない。しかし、将来的にこのまま人口が減っていくと歳入も減ってくる。働く人が減り高齢者が増えれば、国民健康保険料や介護保険料の値上げにつながり、そうなると税をつかってもつかなくてもそこへ入れても成り立たなくなるということも考えられる。今はそのような現状。都市計画税の収入を見込めなくなると非常に厳しい状態ではあるが、それよりも市民がどう考えているのかを率直に聞きたいというのが市長の考え。誘導するわけではないが、確かに市の状態はそんなに楽ではないのは事実。もう一点、上下水道は公営企業なので 1ℓの水を飲むのに 100 円要すれば 100 円徴収するのが原則。しかし、現状は違う。下水道も処理費＝使用料となっていない。徴収しているお金より処理費や水をつくる費用のほうが概ね倍位かかっている状態。そんなことから今後上下水道料金の値上げはしていかなければ、独立採算制を基本としている企業会計は成り立たない状況。上下水道審議委員会は、これまでに「早く料金改訂をしたほうが良い。」という答申を市にしている。現在、その流れの中で進んでいる。そのような状況の中、市民の方が都市計画税をどのように思っているのか。「市が苦しいのであれば、将来を見据えしっかりとるべきだ。」「0.2%をいきなり賦課するのではなく 0.1%なら良いのでは。」「下水道が整備された地域のみ課税すべき。」等々いろいろな意見がある。下水道を整備したところに課税という意見は、下水道整備地域が毎年変わってくるので、一筆一筆毎年チェックしながら課税しなければならず、そうなると非常に事務処理上厳しい。また、下水道計画はあっても 10 年も 20 年も整備されない地域の方は、どうして都市計画税を払う必要があるのかという意見。それがざっくばらんな話。これらを踏まえて皆さんの意見をいただきたい。

(委員)

都市計画税は目的税ということで、充当できる事業が決まっているということだが、何に使えるのか。

(総務部長)

都市計画決定をした都市計画道路、都市公園、近くで言えば寺尾の湯の下の公園に都市計画税を導入している。あとは石和駅前の区画整理事業。公園や道路に充当できるが、それには一定の計画を立て、了解を得てからでないと投入ができない。農道の補修や学校建設にはつかえないというのが目的税。

都市計画税を今すぐに充当できるメニューは下水道の償還と境川のごみ処理場を造った際の起債に対する償還金。過去に都市計画施設として造った際の借金の返済へ充てるというものなので、今後も課税するとなれば過去の借金をかえしていくために都市計画税をとるということになる。もうひとつは、新たに何かの施設が計画されたときに都市計画施設に認定されれば、都市計画税を充当できる。将来、笛吹市のためになる施設費として税をとるのであれば、受益者負担の面からも恩恵を

受けるので説明しやすいが、過去の借金返済ということであれば、下水道が入っていない人の分までどうして借金をかえすために都市計画税を払うのかという議論は正直いってある。境川地域は、下水道が整備されているので、その借金を返しているということも事実。そういうことも含め、判断願いたい。

(委員)

私は都市計画税に対して反対とも思っていない。ただ名称が「都市計画税」なので、田舎の人には響かない。都市計画という言葉から何か石和のためにどうして払わなければいけないのかという感覚が残っているところがある。その辺も含めて目的税なりの名前に変えたほうがいいと思う。

(総務部長)

都市計画税という名称は、都市計画法という法律に基づいているため。委員ご指摘のとおり、都市計画という響きから石和のための税金のように取る方もいる。変更が可能なら地域振興税のような名称の方が分かりやすいのだが、都市計画税という名称で、固定資産税に0.2%賦課すると法律で定められているので、名称変更は不可能。全国的には、都市計画税の議論において、課税しないという市町村は極めて稀。一般的には税の1つという認識であることは事実。だからといって、私どもが押し売りのように誘導するものではない。

(委員)

私も下水道に世話になっているが、加入当時に土地の大きさによって受益者負担金という多額の金額を支払った記憶がある。それとの関係は。

(総務部長)

当然、境川地域の場合も平米いくらということで、宅地の面積によって引き込む負担金がある。それは加入金みたいなものであり、それと通常の利用料をもってしても、今、下水道の処理をする費用は倍くらいがかかっているということは事実。

(会長)

都市計画税というものはなかなか難しいと思う。今までも御坂の十郎から上と芦川は都市計画区域外のため課税されないという方向できている。それもどうなってくるか。その辺も検討していただく余地はあると思う。

(総務部長)

課税エリアについては、市の裁量でエリアを変えることはできない。県が策定した笛吹川都市計画エリアというものがあり、笛吹市を含む他の市町村との兼ね合いをもって国が定めた設置圏なので、これを市町村の都合によって変更はできないのも事実。

(委員)

都市計画税については、石和町時代に石和町で課税していた。合併したという理由で他の町村も同じようにということには少し抵抗があった。合併したのだから境川も石和も皆同じように平均的に行政サービスを受け、同じように負担するという考え方は分かる。しかし、消防団にかかわっていた際、石和は何台も消防車両を入れ替えたのに境川は1台も入れ替えてもらえなかったのが、都合のいいときだけ平

均的にという議論にしか思えなかった。ただ、今課税しないと将来的にやっていけなくなるのなら仕方ない。しかし、境川地域は一番先に下水道が導入されたが、情けないことに加入率がものすごく悪い。管は来ても加入しなければ負担金を払わないで済むので、浄化槽で処理している人が半分以上いる。今のままの加入率ならば、返済にも充てられないので、もっと PR して加入促進をやっていかないとけない。都市計画税を徴収するのは当然だが、並行して加入率をもっと上げることも行政で進めてもらいたい。

(総務部長)

下水道事業からすると本来なら3年のうちに加入しなければならないことになっている。それを制約的にやっていないので本人の判断で、浄化槽が機能しているうちは下水道に入らなくてもいいという考えの人が多なのが実情。今の意見は都市計画税の理解を求めるためのひとつの方法だと思うのでありがたい。

(会長)

境川は加入率がとても悪い。大黒坂や大窪なんかは加入率が特に悪い。

(委員)

加入率が悪いということを数字的にはっきり出していったほうがいい。根拠を示して理解を得る必要がある。

(会長)

大黒坂と大窪は水道を自分たちで運営し、市の水道をつかっていない。その辺もおかしい。小山のリニアが通るところから下の県道までのところに住宅が10戸以上でている。そこの住民は皆下水道に加入をしたいと思っているが計画が無いから入れない。そういうところは是非引いていただき加入してもらおう方法を考えてもらいたい。

(委員)

大坪では今工場が入っている。入居を検討している会社もある。例えばシチズンのように150~300人の会社では敷地が全部安価に計算されている。検討している会社はほとんどが倉庫と材木置き場で、働いている方はせいぜい10人。この敷地全部を単価にかけるのかと聞かれる。それは市に確認願っているが、実際のところはどうか。

(総務部長)

それは下水の担当に確認する。大きな企業についての算定方法を調べて報告する。

(副会長)

年間5億円徴収すれば、一般会計から借金を返済している部分が他の市民サービスに使えると理解するが、すぐにでも課税してくださいとも言えない。消費税が10%になり、介護保険が見直しになり、政府が出さないなので、市民負担が増える。そう国で仕組んでおり、例えば特養に入るにも要介護度3以上無いと入れない。今まではそうではなかったが、県から市町村で経営するように指導があり、足りない分は市民に負担を投げかけているような状況になるということなので、市もそんな状況になったら困る。先に延ばせのなら是非伸ばして欲しい。限界がきたら仕方が

ないと考える。

(総務部長)

都市計画税は目的税だという話をしたが、お金の話だけをすると5億円ということで、下水道の借金を返すために市の一般会計から5億円出して返済に充てている。もし都市計画税という目的税で返すべき5億円に充てることが出来れば、子供たちのため、福祉のため、何でも使える金が5億円残ってくる。委員ご指摘の考え方も出来る。ただ私どもの立場からは、都市計画税は目的税。用途が決められている。といった説明しか出来ない。委員の意見のとおり金には色が付いていないので、回りまわればそういうことになるが、その理論で皆さんを説得することができないのが実情。ざっくりばらんな話。本当の理論からすると私ども委員の意見のとおりだとも思う。

(委員)

下水道の加入率。3年以内に入れというのが当初の説明だが、何の催促も無いので、そのまま入らないで来ている。だから何回か加入率を上げるために皆に厳しいかもしれないが、部落ごとに加入率を拾い出すとか何とか上げる方法を考えてもらいたい。

(委員)

企業からの相談で入居の際、合併浄化槽で可能かと必ず聞かれる。大坪という地区が境川で一番低い地域で、ほとんど浸透しないので私は第一条件でだめ言っているが、実際法律的に許されるものなのか。地域の心情としては合併浄化槽の話が出た瞬間どんな優良企業が来てくれてもだめだと伝えている。

(会長)

それでいいと思う。大坪は川より低いところに住宅がある。そして大坪の裏は転地返しをし、そのとき甲府の生ごみを入れた。計画が悪かったのは生ゴミをビニールに入れたこと。50cm掘ると一面にビニールの袋が敷いてあり、非常に弱っている。オプトの場合は盛土したので良いということになったが、隣の飯田鉄工では50cm掘ったらビニールの袋だらけで、断られた経緯がある。生ゴミを全部袋から出せばよかった。そうすれば土に返った。

砂原橋が4年間停滞してしまった。市長の話のとおり両脇の地権者から同意をもらった。前市長のときは絶対同意しないということだったが進展した。30年完成ということなので、大坪はもっともっと発展していくと思う。オプトはサッカーの練習場を造る計画をたて、陳情書を市長に持っていった経緯があり、そのままになっている。国のサッカー連盟でもヴァンフォーレの練習場であれば補助金を出すというところまでいった。砂原橋全面開通で小瀬まで5分という一番いい場所である。そのままになっているが、何とかしなければもったいない。境川以外の人たちはどうしてあんなところに良い橋をと言う。実際、甲府へ通っている人たち白井河原橋から中道橋まで500mくらいしかないが、朝の通勤時間帯は30~40分かかってしまう。車の渋滞が激しいので、砂原橋が出来ると甲府まで5分で行ける。そうなると皆さんが良かったと思いなおしてくれと思う。

(総務部長)

下水道には当然入ってもらうことが原則。工業誘致をした場合、地元や地区の意志を無視して市が進めることはないので、そこはきちり同意を取りながら進めていくというのが大前提なので、そう認識いただいて結構。

(委員)

市の人口ビジョンがあるが、毎年市の人口が減ってきている。市の対応等説明願う。

(経営企画課長)

配布した資料に市の人口ビジョンと総合戦略がある。少子高齢化の傾向から推計したのがピンクの冊子。市の人口は現在 7 万人。このまま何もしなければ 41,000 人になってしまうというのが人口ビジョンでの推計。この状況を打破し、人口減少を少しでも緩やかに推移させるための施策が総合戦略に示してある。当然、移住定住を進め、企業誘致をすることによって人口を増やし、住みやすく子育てをしやすい環境をつくることにより転入者増を目指している。いろいろなことを組み合わせながら事業を進めていくのが総合戦略。これを進めることによって結果的に 41,000 人を 55,000 人程度の減少で抑えようと目標を持ってすすめる。という内容が書かれている。

(会長)

地域審議員の皆さんには、これからも協議いただき境川町の人口が増えるよう協力願う。他に無いようであれば以上で議事を終了する。

6. その他

なし

7. 閉会(副会長)

互礼を交わし終了